

# ラグビーの歴史

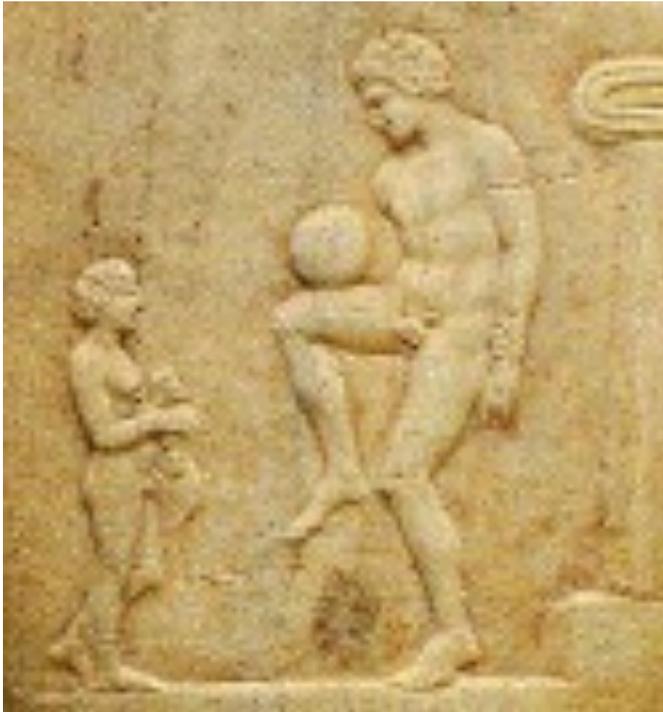
---

ラグビーはどのように始まり、どこに行くのか？



公財) 日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会コーチング部門  
資料作成者: 川島 淳夫

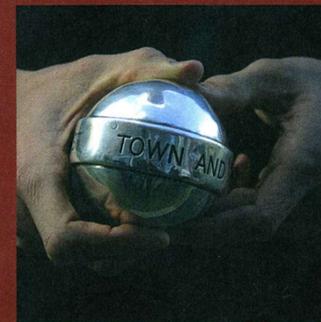
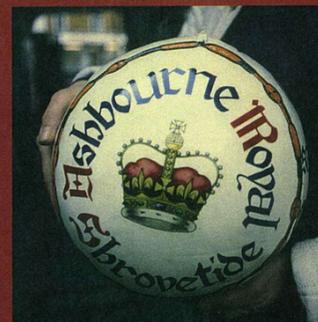
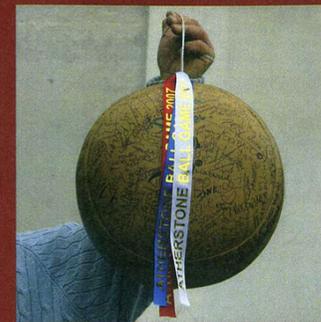
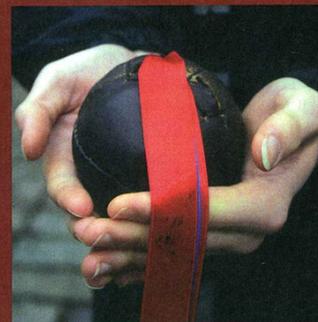
# フットボールの起源



ローマ・ブリテン時代(1世紀末～5世紀初)

ローマ軍司令官は、兵隊を鍛えるため「ボールを掴んで、ゴールラインを超えた地点にボールを運ぶ」乱闘(ハルパスタム)を奨励した。

# フォーク・フットボール

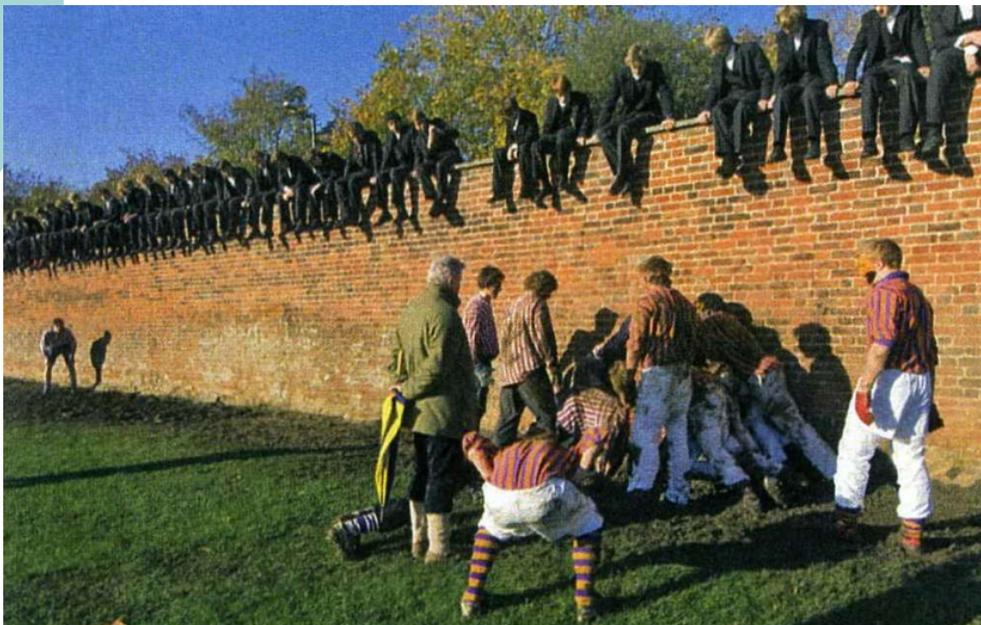


# シュロブタイド・フットボール(アッシュボーン)



1915年

# 校庭のフットボール



ウォール・ボール(イートン校)



ウィンキーズ(ウィンチェスター校)

# ラグビー校

---



# エリス少年の銘板 (Plaque)



この銘板は1823年に当時プレーされていたフットボールの規則をみごとに無視し、初めてボールを両腕に抱えて走ることで他に類をみないラグビー競技の特徴を創始したウィリアム・ウェブ・エリス(1806—1872)の偉業を後世に伝えるものである

# ウィリアム・ウェブ・エリス

---



Rev. William Webb Ellis (1807-1872)

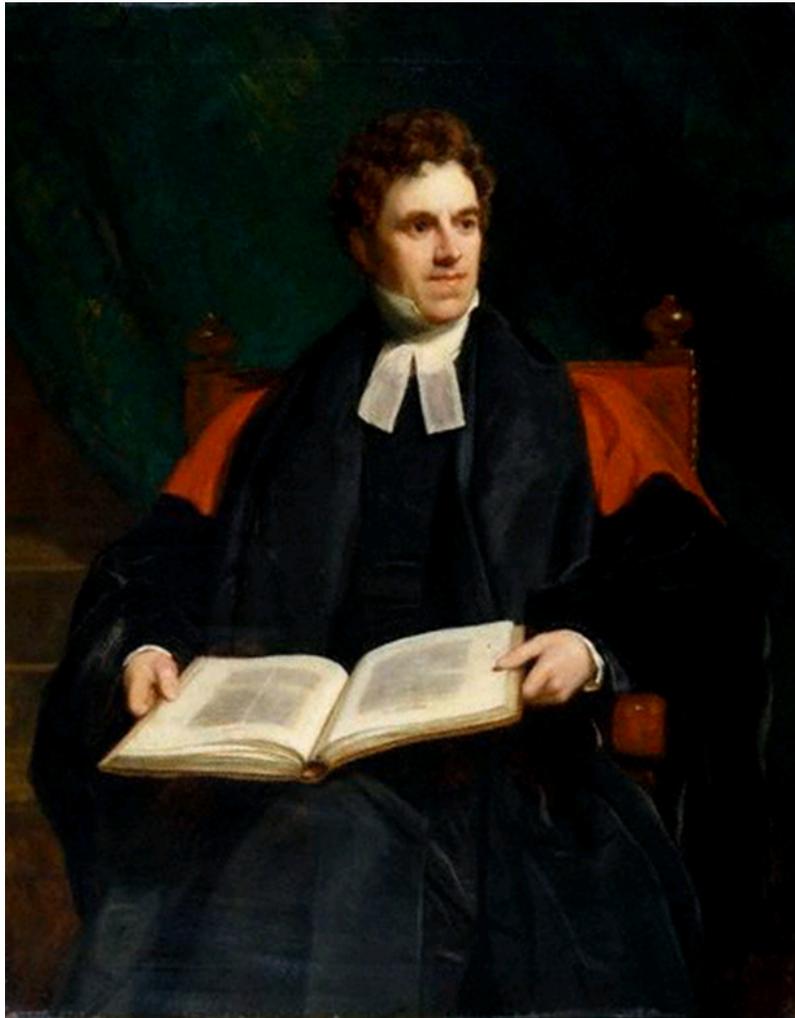


## エリスにまつわる年表

---

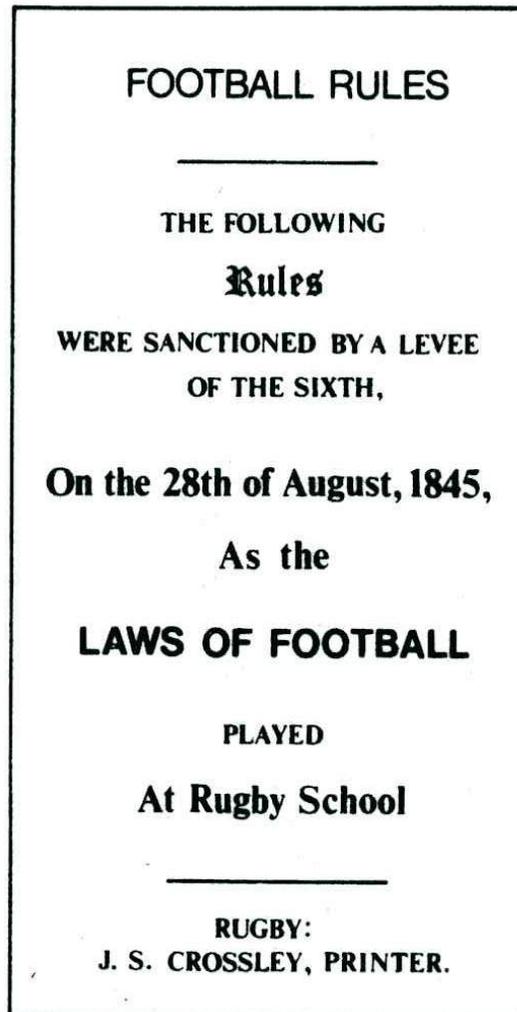
- **1816年** ラグビー校入学
- **1823年** ルールを無視してボールを持って走る
- **1825年** オックスフォード大学入学
- **1872年** 聖職者となりフランスで死亡
- **1876年** ラグビー校卒業生(1821年卒)によってエリス伝説が初めて語られる
- **1880年** 再びエリス伝説が語られる
- **1895年** ラグビー校卒業生グループがラグビーの起源について調査を開始する
- **1900年** エリス少年の銘板完成

# トーマス・アーノルドの存在

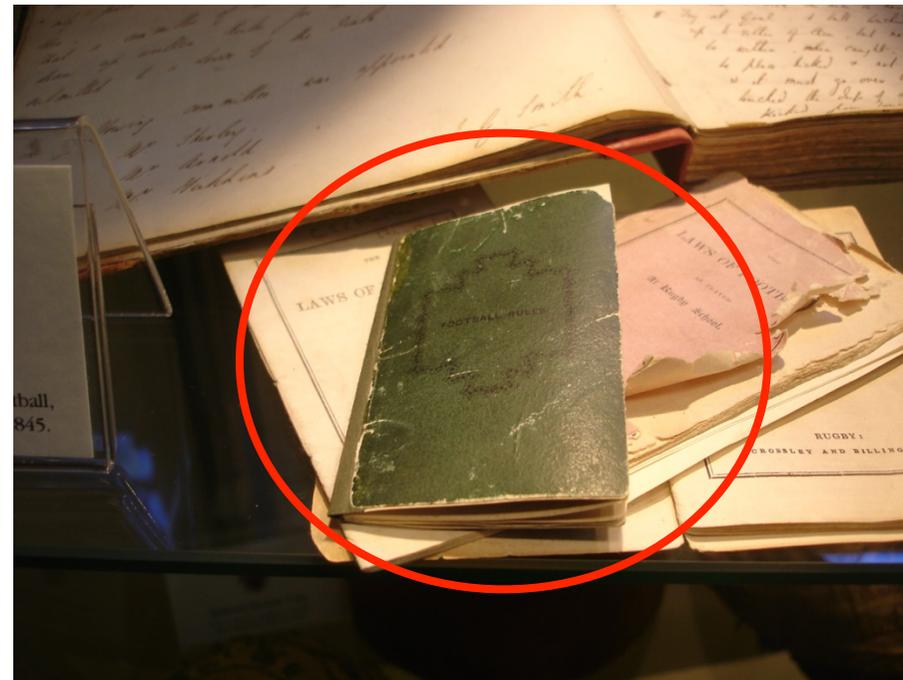


- ラグビー校の校長となったトーマス・アーノルド(1828-42)は、ラグビー校の教育改革に成功した。そしてその教育思想である「筋肉的キリスト教主義」の一端を担ったのが校庭でのゲームであった。
- ラグビー校の教師、卒業生が新設校の校長や教師になって「ラグビー校式フットボール」を広めた。

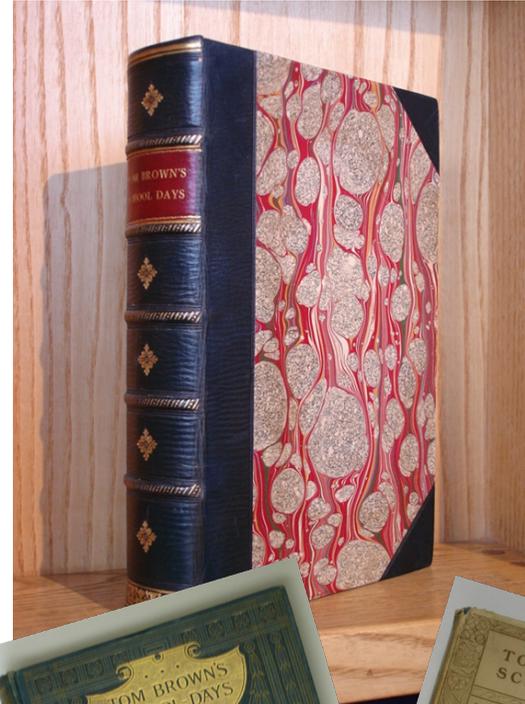
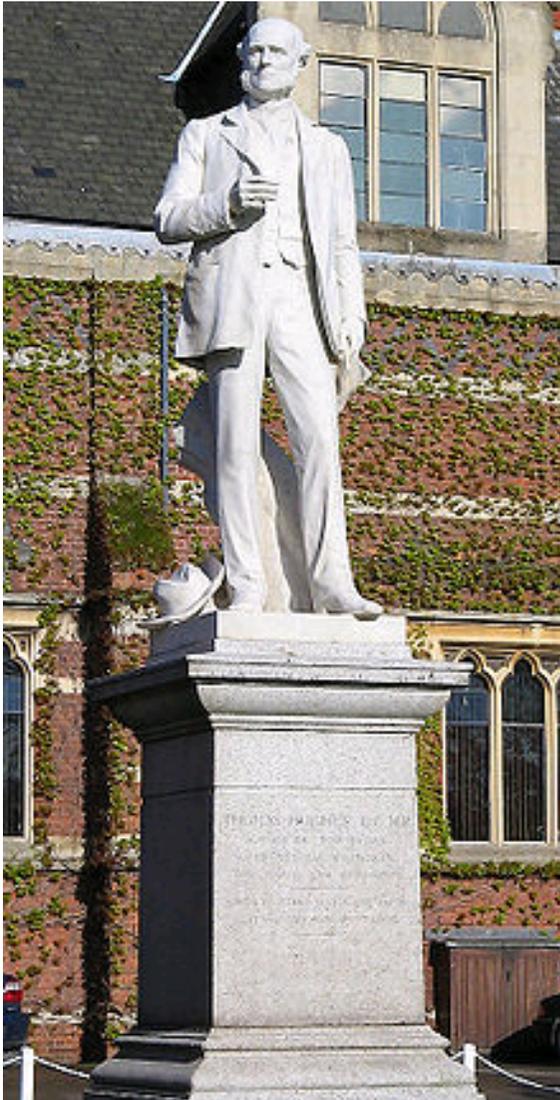
# 世界で初めて成文化されたフットボールの規則

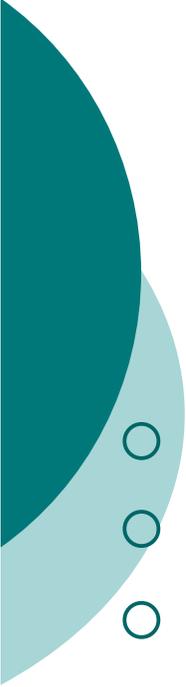


1845年  
37条からなる競技規則  
Football Rules を制定



# トマス・ヒューズと 『トム・ブラウンの学校生活』





# ラグビーの主要年表1

---

## 黎明期からIBの成立

- 1823年 エリス少年の伝説
- 1828年 トーマス・アーノルド校長就任
- 1845年 ラグビー校式フットボールルールの成文化
- 1857年 『トム・ブラウンの学校生活』出版
- 1871年 RFU設立
- 1884年 England 対 Scotland のテストマッチの結果  
に対する論争発生
- 1886年 IB (International Rugby Football Board) 設立
- 1890年 England IBに加盟

# ラグビーの主要年表2

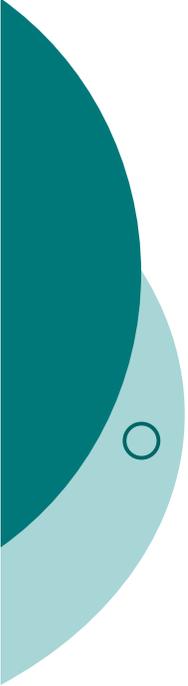
## 大分裂からワールドカップ開催

- 1895年 ユニオンとリーグ分裂
- 1930年 IBの競技規則をすべてのユニオンのすべての試合に適用
- 1949年 オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカがIBのメンバーユニオンになる
- 1978年 フランスがIBのメンバーユニオンになる
- 1985年 ワールドカップ開催決定
- 1986年 IB百周年記念会議開催
- 1987年 ワールドカップ開催

※ この年以降日本を含め多くのユニオンがメンバーユニオンとなる

# 第1回ラグビーワールドカップ





## ラグビーの主要年表3

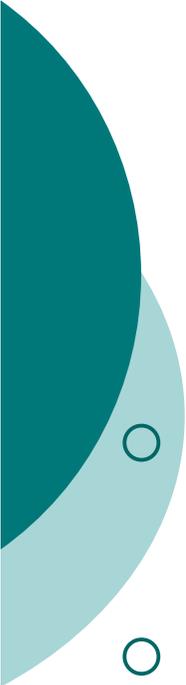
---

オープン化以降

- 1995年 第3回ラグビーワールドカップ(南アフリカ)

# 『インビクタス 負けざる者たち』





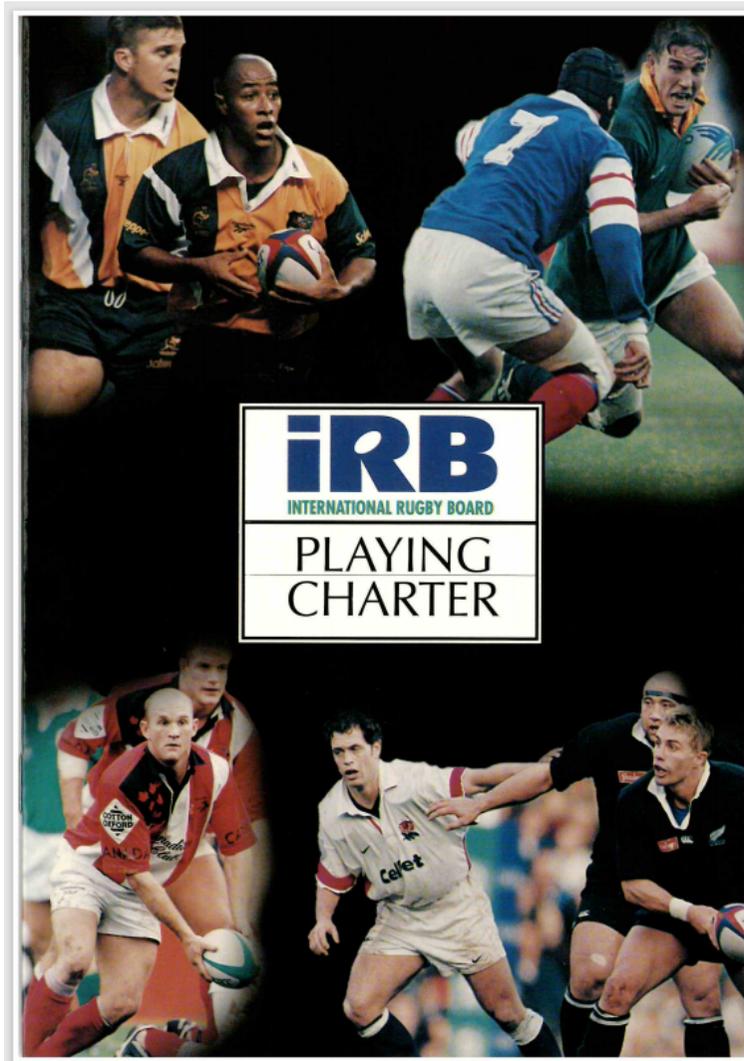
## ラグビーの主要年表3

---

オープン化以降

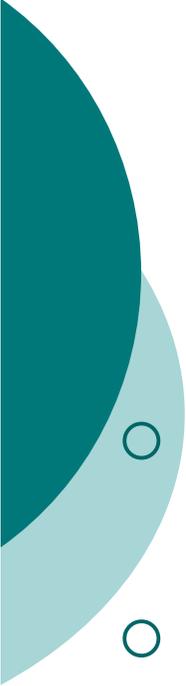
- 1995年 第3回ラグビーワールドカップ(南アフリカ)  
オープン化
- 1997年 IRB(International Rugby Board)に改称  
ラグビー憲章制定  
ラグビー憲章を競技規則に掲載

# ラグビー憲章



## 序文

1. ラグビーの目的
2. ラグビーの原則  
ボールの争奪 攻撃／プレーの継続  
防御／ボールの再獲得  
多様性 報償と罰
3. 競技規則適用(レフリング)の原則  
ラグビーの目的と原則  
公平さ 一貫性  
アドバンテージ 優先順位  
マッチオフィシャルのゲームマネジメント  
適用
4. 競技規則制定の原則  
安全性 平等な参加機会  
独自性の維持 プレーの継続  
プレーする喜びと観る楽しみ  
スペースの確保／報償、失敗と罰則  
一貫／遵守／簡潔  
ルールブックの普遍性



## ラグビーの主要年表3

---

オープン化以降

- 1995年 第3回ラグビーワールドカップ(南アフリカ)  
オープン化
- 1997年 IRB(International Rugby Board)に改称  
ラグビー憲章制定  
ラグビー憲章を競技規則に掲載
- 2003年 ラグビー憲章改定
- 2009年 コアバリュー制定
- 2011年 コアバリューを競技規則に掲載

# コアバリュー



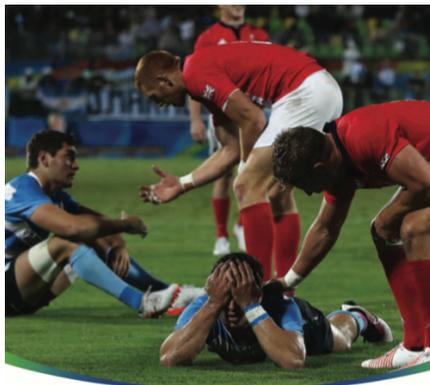
## 品位 (Integrity)

品位とはゲームの核をなすものであり、誠実さとフェアプレーによって生み出される。



## 情熱 (Passion)

ラグビーに関わる人々は、ゲームに対する情熱的な熱意を持っている。ラグビーは、興奮を呼び、愛着心を沸かせ、世界中のラグビーファミリーとの一体感を生む。



## 結束 (Solidarity)

ラグビーは、生涯続く友情、絆、チームワーク、そして、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超えた忠誠心につながる、一つにまとまった精神をもたらす。



## 規律 (Discipline)

規律は、ゲームに不可欠なものであり、フィールドの内と外の両方において、競技規則、競技に関する規定、そして、ラグビーのコアバリューの順守を通じて示される。



## 尊重 (Respect)

チームメイト、相手、マッチオフィシャル、そして、ゲームに参加する人を尊重することは、最も重要である。



## ラグビーの主要年表3

---

オープン化以降

- 1995年 第3回ラグビーワールドカップ(南アフリカ)  
オープン化
- 1997年 IRB(International Rugby Board)に改称  
ラグビー憲章制定  
ラグビー憲章を競技規則に掲載
- 2003年 ラグビー憲章改定
- 2009年 コアバリュー制定
- 2011年 コアバリューを競技規則に掲載
- 2014年 WR(World Rugby)に改称
- 2019年 第9回ラグビーワールドカップ(日本)

# 第9回ラグビーワールドカップ(日本)





## 考えてみてください

---

- ワールドカップ開始以降ラグビーはどのように変わったか(良かった点・悪かった点)
- オープン化以降ラグビーはどのように変わったか(良かった点・悪かった点)
  
- これからのラグビーはどのように変わっていくのだろうか(変わっていくべきなのか)
- 時代が変わっても守り続けるべきラグビーの魅力・特性とは何か

# 日本ラグビーの歴史

1874年

日本で記録された最初のラグビーの試合が横浜でイギリスの船員によって行われた。



1899年

横浜生まれの英語教師エドワード・B・クラークと田中銀之助によって、慶應義塾大学の学生にラグビーが「公式」に紹介された。

1920年代

日本のラグビーが成長し始める。

# 日本のラグビー協会の歴史

---

1925年(大正14年)

西部ラグビー蹴球協会が設立される。同時期に関東でも東部ラグビー蹴球協会(関東ラグビーフットボール協会の前身)が設立される。

1926年(大正15年)

日本ラグビー蹴球協会(日本ラグビーフットボール協会の前身)が設立される。

1929年(昭和4年)

西部協会に大阪支部(奈良県を含む)をはじめ7支部が設置される。

1947年(昭和22年)

西部ラグビー蹴球協会より九州協会(九州ラグビーフットボール協会)が分離独立し、西部ラグビー蹴球協会は関西ラグビーフットボール協会と改称する。